



<プレスリリース>

2013年12月17日
2015年ミラノ国際博覧会 日本館

2015年ミラノ国際博覧会開幕500日前
日本館の出展概要、シンボルマークを発表
日本館サポーターに、歌手・モデルのきゃりーぱみゅぱみゅさん、
書家の紫舟さんなどが就任

1. 2015年ミラノ国際博覧会

【2015年ミラノ国際博覧会の概要】

2015年ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）は、2015年5月1日から10月31日までの184日間、イタリア・ミラノで開催されます。ミラノ万博は、国際博覧会条約に基づく登録博覧会、すなわち5年ごとに開催される大規模博覧会で、2005年の愛・地球博（愛知万博）、2010年の上海国際博覧会（上海万博）に続くものとなります。

- 会場面積 : 110ヘクタール
- 想定入場者数 : 約2,000万人
- 想定参加国等 : 140カ国（2013年12月現在、138カ国・国際機関が参加表明）
- 公式サイト : <http://www.expo2015.org/>





【ミラノ万博テーマ・サブテーマ】

2015年ミラノ国際博覧会は、「持続可能な開発（Sustainable Development）」を重要な課題とし、食にまつわる産業の伝統、創造性と革新性を紹介する、これまでにない国際博覧会です。「地球に食料を、生命にエネルギーを」（Feeding The Planet, Energy for Life）をテーマに、「世界中の人々に、十分に安全で、健康的、適切、持続的な食料を保証することは可能か？」という世界規模の共通の課題に向き合い、新たな世界の可能性に着手する機会となります。

<テーマ>

地球に食料を、生命にエネルギーを（Feeding the Planet, Energy for Life）

<サブテーマ>

- ① 食料の安全、保全、品質のための科学技術
(Science and technology for food safety, security and quality)
- ② 農業と生物多様性のための科学技術
(Science and technology for agriculture and biodiversity)
- ③ 農業食物サプライチェーンの革新
(Innovation in the agro-food supply chain)
- ④ 食育
(Dietary education)
- ⑤ より良い生活様式のための食
(Food for better lifestyles)
- ⑥ 食と文化
(Food and culture)
- ⑦ 食の協力と開発
(Cooperation and development on food)

【ミラノ万博ロゴ】



MILANO
NUTRIRE IL PIANETA
ENERGIA PER LA VITA



2. 2015年ミラノ国際博覧会 日本館

【日本館出展テーマ】

Harmonious Diversity - 共存する多様性 -

私たち日本人は、自然と共生する多様な農林水産業を礎に、米を主食とし、うま味や発酵技術などを活用しつつ、魚介類や野菜など様々な「食」を享受してきました。また、「自然の叡智」を謙虚に取り入れながら、高度な伝統工芸技術・職人技を食器や調理器具、食空間にまで反映させ、豊かな「食文化」を築き上げてきました。

農林水産業や食をとりまく多様な取組。日本食・日本食文化に詰め込まれた多様な知恵と技。日本が培ってきた「多様性」は、食料問題など地球規模の課題に貢献する大きな可能性を秘めています。2015年ミラノ国際博覧会に、日本は「Harmonious Diversity - 共存する多様性-」をテーマに参加します。

【日本館のメッセージ】

<メインメッセージ>

「日本の農林水産業や食をとりまく多様な取り組み、『日本食』・『日本食文化』に詰め込まれた多様な知恵や技が、人類共通の課題解決に貢献するとともに、多様で持続可能な未来の共生社会を切り拓く」

<サブメッセージ>

「いただきます、ごちそうさま、もったいない、おすそわけの日本精神が世界を救う」

【日本館概要】

- 出展テーマ : Harmonious Diversity - 共存する多様性 -
- 幹事省 : 農林水産省、経済産業省
- 副幹事省 : 国土交通省
- 参加機関 : 日本貿易振興機構（ジェトロ）
- 敷地面積 : 約 4,170 m²（参加国中、最大級の規模で出展）
- 公式サイト : <http://expo2015.jp>



【日本館シンボルマーク】



JAPAN
EXPO 2015 MILANO

両端が細くなっている日本独自の「祝い箸」をモチーフにしたシンボルマークです。優雅な曲線が日本の繊細な美意識を表しつつ、全体のフォルムはEXPOの「E」を形づくっています。日本の精神を極限までシンプルに表現しながら、並べ方によって変化していく楽しいマークです。お箸を並べることで、日本の食や食文化に根付く精神を伝えます。

食べ始め、食べ終わりの「いただきます」と「ごちそうさま」はもちろん、どんなに小さい物でもつまめるその形で「もったいない」を、さらに、お箸が連なることで「おすそわけ」の精神を表現しました。それは、世界の人々が「食」をテーマにつながることを意味しています。

■ 日本館シンボルマーク制作者

株式会社 HAKUHODO DESIGN

丹野 英之

シニアクリエイティブディレクター／アートディレクター／CMプランナー





【日本館協賛企業・団体】

JAグループ

旭硝子株式会社 味の素株式会社 伊藤忠商事株式会社

カゴメ株式会社 キッコーマン株式会社 キューピー株式会社

住友商事株式会社 全日本空輸株式会社 日本航空株式会社

ハウス食品グループ本社株式会社 ホシザキ電機株式会社

本田技研工業株式会社 三井物産株式会社 三菱商事株式会社

ヤンマー株式会社

双日株式会社 豊田通商株式会社 日本商工会議所・東京商工会議所

株式会社はせがわ酒店 丸紅株式会社 三菱重工業株式会社

特別協力 一般財団法人地球産業文化研究所

(2013年12月10日時点)

【日本館の建築】

多様性を抱くうつわ

再生可能資源である木材の活用が森林の整備保全につながり、その森林が養分豊富な水を涵養し、その水が大地や海洋に還元され、人々に多様な食材をもたらす。古来日本の里山では、木の活用と人々の暮らしが密接に結びつき、理想的な循環型社会が育まれてきました。日本館では、ミラノ万博のキーワードの一つである「持続可能性（サステナビリティ）」を体現する建築素材として「立体木格子」を採用します。日本の四季・自然・生態系・食など、多様性の原点を表す立体木格子は、「多様性を抱くうつわ」としての日本館を形づくりします。

日本の伝統文化と先端技術の融合

法隆寺に代表される日本の伝統的木材建築は、継手・仕口といった木同士の「めり込み作用」によって成り立つ、粘り強く耐震性にすぐれた構造体であり、「生きている建築（生命論的建築）」と呼べるものです。立体木格子による構造体は、伝統的木造建築の木組みの知恵と、木材の「めり込み作用」の解析・応用という現代の技術によって初めて実現する、まさに日本の伝統文化と先端技術の融合による革新的な手法です。





【日本館の構成】

日本館は2階建て構造で、1階は展示ゾーン、2階はレストランとイベント広場で構成されます。1階の展示は、自然との共生、共存、調和をテーマに、食に関する地球規模の様々な課題について、芸術性の高い展示とエンターテインメントあふれる演出で展開します。2階は、日本食の楽しさや世界に誇る食の技術などを紹介するフードコートや、日本産食材を活用した本格日本料理レストランがあり、日本のおもてなしと日本食をじっくり堪能することができます。

184日間の開催期間中には、フードコートに隣接するイベント広場において、日本各地の都道府県などの参加による、食に関する多種多様な日本の知恵と技、伝統文化をアピールする様々なイベントが展開され、さらには「ジャパンデー」の開催も予定しています。



【ミラノ万博日本館プロデュース体制】

■ 総合プロデューサー

福井 昌平 (株)CD研究所代表取締役社長

企業・都市・地域の、未来創造戦略に寄与する CI(コミュニケーション・アイデンティティ)戦略推進の総合コンサルタント業務を展開している。2005 年開催の愛・地球博の企画・事業・参加・広報担当チーフ・プロデューサーや、2010 年開催の平城遷都 1300 年記念事業祭のチーフ・プロデューサーを歴任。2012 年、韓国で開催された麗水国際博覧会日本政府出展事業の総合支援業務推進プロデューサーを務めた。



■ 建築プロデューサー

北川原 温 東京芸術大学教授 建築家／一級建築士

日本を代表する建築家。ミラノ工科大学建築学科との交流で培った人脈を持つ。現在イタリアトレンティーノ州のウェルネスセンターの設計業務を現地建築事務所と共同で推進中。イタリアの建築法規の知見・現地建築系企業・大学とのネットワークを持つ。建築をはじめ、美術、工芸、演劇など造詣が深い。また、現在、東京芸大教授として、後進の指導にあたっている。日本芸術院賞をはじめ、国内外の建築賞を多数受賞。



■ 展示プロデューサー

内藤 純 (株)電通 プロモーション事業局 スペース・ブランディング室 室長

国際博覧会において、数多くのパビリオンをプロデュース。2005 年の愛・地球博では、トヨタグループ館の総合プロデューサーとして全体統括。国際イベントや大型ショールーム、店舗開発、都市開発など、多くの実績を誇る。スペース、グラフィック、プロダクト、映像など幅広いクリエイター人脈とプロダクションネットワークを有する。



■ 運営プロデューサー

菊竹 三訓 (株)電通 プロモーション事業局 スペース・ブランディング室 部長

愛・地球博 三井・東芝館でのプロデューサーとして運営実績を持つ。2002FIFA ワールドカップや F1 日本グランプリ等、国際スポーツイベントにおいて運営プロデュースにあたる。VIP 接遇、国際プロトコルの知見も高い。現地の運営事情に精通している。



■ 広報・行催事プロデューサー

桐山 登士樹 (株)TRUNK 代表取締役

イタリアのデザインやアートに最も精通している日本人のひとり。ミラノサローネにおける日本人プロデューサーの第一人者として現地のアート・デザイン界、メディア界に強力な人脈を持つ。ミラノ市やミラノの PR 会社とのコネクションも強い。また、海外の見本市において JETRO ブースのプロデュース実績多数。国際的な展覧会、展示会において“JAPAN STYLE”を発信することに定評がある。



■ レストランプロデューサー

柴田 陽子 柴田陽子事務所 代表取締役 ブランディングプロデューサー

アメリカでマーケティングを学び、外食企業の事業開発部において新規レストランの開発に携わる。現在は、レストランを主としたブランディングプロデューサーとしてコンセプト開発、コーポレートブランディング、業態開発から、メニュー企画、空間デザインディレクション、VMD やロゴデザイン、食器やユニフォームのコーディネイト、教育まで、多岐にわたるプロデュース手法に広く評価を受ける。





【ミラノ万博日本館サポーター】

ミラノ万博日本館では、イタリア、ミラノ万博のテーマ、日本館のコンセプトなどに関わりの深い方々を、「ミラノ万博日本館サポーター」として、農林水産大臣及び経済産業大臣より任命するプロジェクトを進めています。就任いただいた日本館サポーターには、今後、その知名度や情報発信力を活かして、様々な場面でミラノ万博及び日本館の魅力発信にご協力いただきます。

■ きゃりーぱみゅぱみゅ（歌手・モデル）

フルネームは、きゃろらいんちゃろんぷろっぷきゃりーぱみゅぱみゅ。高校を卒業した2011年、夏にワーナーミュージックから、中田ヤスタカ（CAPSULE）プロデュースによるミニアルバム「もしもし原宿」（8/17発売）でメジャーデビュー。

さらに同ミニアルバムは世界23カ国で同時配信され世界デビューも果たし、各国で話題に。リードトラック「PONPONPON」のミュージックビデオは動画配信サイトで、あっという間に再生回数2700万回を記録。昨年

5月に発売した初のフルアルバム「ぱみゅぱみゅレボリューション」は、オリコンデイリーチャート初登場1位、さらにiTunesでも日本総合チャートや世界各国のelectroチャートで1位を獲得。そのかわいい容姿からは想像がつかないほど自由奔放で、オリジナリティ溢れる表現でファンを魅了し続けている。2012年11月には自身初となる日本武道館公演を開催。2013年には、ワールドツアーを8カ国13都市で開催し、公演を全て大成功させる。そして2013年6月、満を持して発表したセカンドアルバム「なんだこれくしょん」は、オリコンウィークリーチャート初登場1位。アーティスト活動とファッション面での活動を掛け合わせた、『HARAJUKU』のアイコンとしての存在が、今、全世界から注目を集める。



■ 紫舟（書家）

六歳より書をはじめ。書の本場奈良で三年間研鑽を積んだのち東京へ。書を用い、文字をイメージ表現・表情・感情をつけ情報としての文字に意思を吹き込む。そして日本の伝統的な書を、世界に通用する「意思を表現する」手段として世界を舞台に発信している。

（海外での展開）

国際芸術祭ヴェネツィア・ビエンナーレ関連企画展（2011年）





「Future Pass - From Asia to the World」書紫舟&制作チームラボ映像作品出展
アルゼンチン・ウルグアイ・チリ 外務省「日本文化紹介派遣事業」（2009年）
パリコレクション（ルーブル美術館）AGURI SAGIMORI 作品展示（2009年）
エジプト「日本アラブ国際会議」書家代表として文化庁より招待公演（2007年）
国際芸術祭ヴェネツィア・ビエンナーレ関連企画展・展示パフォーマンス（2005年）

■ さかなクン（東京海洋大学客員准教授、農水省お魚大使、環境省地球いきもの応援団）

お魚の豊富な知識と経験に裏付けされたお話やそのキャラクターが幼児からお茶の間まで大人気。『朝日小学生新聞』『家庭画報』などでコラムを連載中。『おしえて！さかなクン①～③』『さかなクンの水族館ガイド』『講談社の動く図鑑 MOVE 魚』など著書多数。子どもたちを中心に、お魚や海・自然への興味を引き出し、漁業・魚食と環境保全への理解が増すようイラストを使ったさかなクンらしいカリキュラムを組み、全国規模で講演を続ける。



© 2013 ANAN  AND Tm.

その他の日本館サポーターについては別紙に記載
合計 109 名（2013 年 12 月 17 日現在）

本件に関する報道機関の皆様からのお問合せ先

2015 年ミラノ国際博覧会 日本館広報事務局(株式会社オズマピーアール内)

担当:長田(おさだ)・布施・鈴木 TEL:03-4531-0214